



認知症高齢者をささえる専門病院

シリーズ3 高齢者の栄養管理 “食べる楽しみは一番の治療薬”

「寝たきりになるなど介護度が高い状態になる原因は？」と問われたら、転倒や認知症と答える人が多いと思うが、「衰弱（低栄養の状態）をあげる人は少ない。白井病院では、高齢者の低栄養が引き起こす床ずれ（褥瘡）、食べ物が飲み込みにくい（嚥下障害）、気管に物を詰まらせる（誤嚥）などの危険性にいち早く着目。医療の一環として、とくに高齢者の栄養管理に取り組んでいる。食事面では独自の調理法やメニューも考案、入院患者だけでなく通所リハビリ利用者にも提供している。

そこで、患者の医療・療養を支える白井病院栄養科長の生賀志津子管理栄養士に、食事と栄養について聞いた。

白井病院では、医師の指示のもと看護部をはじめ各職域との情報交換を行い、毎月患者個々の栄養計画を立てている。とりわけ食事は入院患者の一番の楽しみであることから、有機農家と契約し、有機米や有機野菜を使用。食中毒がおこらないよう徹底したチェック体制のもと家庭の食事と同じような治療食を提供している。

例えば、ご飯が食べづらい患者にはやわらかいご飯や、その方にあった個数のオニギリ、飲みこみの悪い方には独自のペースト食、褥瘡のある患者には、亜鉛やタンパク質などを多く含んだ品で患者一人ひとりの治療にあつた食事の対応を行っている。

「当院の調理部門は直営ですので、個別対応の幅は広がります。家族の食事を作るとき



のように心を込めて栄養管理と調理を行っています」と生賀さんは話す。

口から食べることで生きる力が湧き上がる

医療技術の進歩によ

り、点滴や鼻からのチューブ、胃ろうカテーテルで身体に栄養を取り入れることができるようになってきているが、「嚥下力が少しでもあれば口からゼリーひと口でも召し上がっていただきたいので、会議で情報交換を行い、医師の特別オーダーにもすばやい対応を行っています。食べる喜びを通して生きる希望を見出し、退院後の生活に繋がるよう、少しでもお役に立てばと思っています」という。

栄養科では入院退院の栄養指導はもとより、外来の栄養指導も行っています（糖尿病食や肥満症などの特別治療食）。その他、食事相談や簡単レシピ集も提供。地域住民を対象に栄養に関する（勉強会）の準備も進めている。

▽白井病院＝認知症患者を専門にみる病院。通院治療、長期継続入院、持病のある患者にも対応。医療福祉相談課にケースワーカー6名が在籍し、認知症へのアドバイスをはじめ、介護全般の家族の悩み、医者にかかる手前の相談など、本人や家族の悩みごとをもサポートしている。

生賀志津子管理栄養士



医療法人白卯会 白井病院

泉南市新家 2776

【問】TEL 072-482-2011(代)

白井病院医療福祉相談課
(月～土曜日9時～17時)

www.shiraihp.or.jp